

暴かれた古代史

二千年の涙



山本 健造 原著 山本 貴美子 著
福来出版

目次

一章 出雲は奉還した国を乗っ取った	13
国防から国作りに / 国内が乱れる / 出雲と四重の政略結婚 / オオクニヌシの裏切り	
飛騨は大軍を率いて出雲に / 歴史が曲げられた原点 譲るとお返し	
出雲はもともと飛騨国 / 円満に談判 / 談判が行われた仮小屋が後に「仮の宮」	39
神事に残る別れの宴 飛騨の温情 / オオクニヌシ幽閉の痕跡	
オオクニヌシの子 逆怨み骨髄 / オオクニヌシの葬式がその時だ / ホヒは殺された?	
大罪人の葬式のごとし / 「神事」が物語るホヒの死の真相と大逆転劇	63
これらの「神事」は古神道ではない / これは大陸的なやりかたである	
今なお残る「出雲トウジン」 / オオクニヌシは大陸に憧れた	
新羅の女に生ませた息子が出雲に / 張本人 英雄イソタケル	92
大社が物語るオオクニヌシ以前の祭神 / 出雲でシラギ神崇拝教興る	
異をとなえるシラギ神崇拝教 / 出雲で大陸礼賛大ブーム起こる	

二章 大和一の宮をとられる

ニギハヤヒは大和の御諸山に降りた / 飛驒王朝 筑紫を平定する

歴史の裏まで伝えた飛驒の口碑は『日本書紀』より正しかった

飛驒王朝最後のスメラ命のサヌに大和朝廷初代天皇を授ける 123

飛驒の匠・糠塚喜一郎氏 笏木を謹製 / 飛驒の位山に大和朝廷初代天皇が幼名サヌで祀られる

大和は都 / 驚き！ 大和一の宮の祭神は外人？ / 信じられな〜い！

出雲のクエヒコも三輪山に祀られている / 『日本書紀』にシラギ神崇拜教の教義が？ 144

シラギ神崇拜教大和を席卷 / 本来 御諸山はニギハヤヒの山

弱みにつけ込まれた / ニギハヤヒの御霊代が盗まれる？ / 「八咫鏡」が危ない

御諸山を乗っ取った天才的「大ウソ」 / モモソ姫の墮胎 そして死 166

天皇 謀略に気づく / 天皇に何の力もなし / 天皇の御苦悩と御決意

大田タネコ 恥を隠すために大墓を造営 / 不可解な天理市の大和神社

戦の準備？ 出雲の武器を調べる / 神官に剣を持たせて出雲に集める？ 188

まだまだ発掘されるはず / 祭神すり替え革命が勢いをまして広がる

二つのねじれ / 天皇が出雲の社を造営 十五代目の大逆転劇

三章

天孫 賤民に転落

シラギ神崇拝教と対立した天照大神を奉ずる人々 / 古神道の惨敗

日本に生き埋めの習慣などないのに / 飛驒の人が先にいたと思う 野田郷

天孫 賤民に転落 / 天皇の重臣までがなぜ? 色仕掛けで入り込む?

「八咫鏡」を狙う出雲 / トヨスキイリ姫 小夫でヤマト姫と交代

鏡を背負うヤマト姫 苦難の道遠し / ヤマト姫 伊勢国へ

守り抜いた天孫 知らぬまに被差別部落に / 「八咫鏡」は伊勢の民家に

十代目にして、ついに見つけられる / シラギ神崇拝教の拠点が外宮に しかも先祭

死守した天孫 それも忘却 / 出雲のシラギ神崇拝教の downside でおぞましい仕打ち

天皇もシラギ神崇拝教を懐柔 国内安定のため / 国難に現れた 飛驒淡郡にいます神

新羅征伐を助けた武内宿禰から蘇我氏が出る / 一神官が天皇より偉い

シラギ神崇拝教 皇室を悪口攻め / 逆に露呈した外来文化の残虐・下劣

物部氏の敗北は天孫の痛手 / 蘇我氏 中枢に食い込み 実権を握る

馬子は天皇を殺す、大反逆罪もお咎めなく、そのまま大臣 / ソ氏一族の累代の野望達成 前夜

蘇我氏滅亡はシラギ神崇拝教の滅亡 / 蘇我氏滅亡の予兆に天照大神現れる

驚き! 明治以前 歴代天皇は伊勢神宮に御参拝されていない / シラギ神の権威墜ちる

四章 シラギ神から出雲の神に変身

二つ目のねじれ シラギ神から出雲神に / 名前も乗っ取る

オオクニヌシの名の多きは だましの手口 / 一番醜い男を 偉大な神に仕立てあげた

天下の悪知恵 奉還を譲るに 335

三輪山にオオクニヌシが祀られて当然のように『記紀』に書かれてある

阿礼の口述どおり書かなかった？ 『古事記』 / 出雲教の教義が入っている？ 『日本書紀』

出雲教の表と裏 / 平安貴族が無視した？ 三輪山 355

したたか出雲は大黒と恵比寿 天ツ神を天神に / 天神様（テンジンサマ）でかろうじてかわす

天皇の近親者も落とされた / 飛騨まで出雲の汚染 江戸時代まだ乗っ取りは続いた

消された古神道の神々 / いじめと神隠しだけが残った 383

終章 日本よ 永遠なれ

恐るべき大陸文化の残虐性 / 自然環境が分けた / この差異は善悪以前の問題

日本は神と天皇と国民が一体 大陸は対立 / 歴史を正し 懺悔し 名譽の回復を急げ 406

日本民族の長所が裏目に 勇気を出せ / 日本人の舶来かぶれ性は国を滅ぼす

日本よ 永遠なれ 416